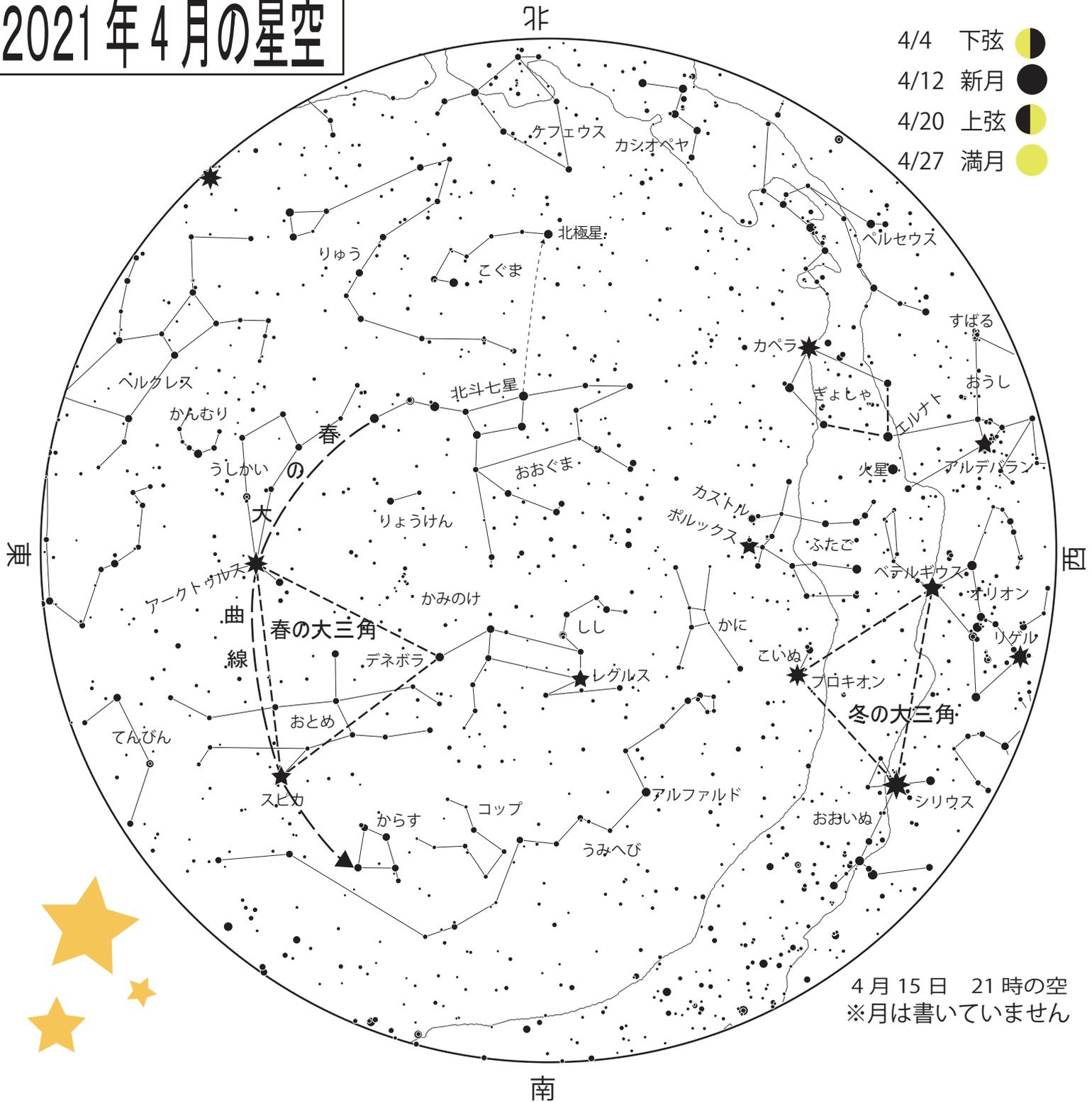


姫路で見る 2021年4月の星空

図の中心が頭の真上(天頂)、まわりの円が地平線です。
この星図は見ている方向の方位を下にしてください。



頭の上には春の星座が広がります。南の空高くにはしし座が見えます。しし座は頭から胸にかけて、?を裏返した形に星が並んでいます。?の点の部分にあるのは1等星のレグルス(小さな王様)、しっぽの先にあるのは2等星のデネボラ(ししの尾)です。一方、北の空高くには、北斗七星が目印のおおぐま座が見えます。北斗七星から北極星を探すときには、小さな柄杓の形をしたこぐま座も見逃さないようにしてください。また、北斗七星から「春の大曲線」をたどると、うしかい座のアークトゥルス、おとめ座のスピカを経て、からす座に届きます。からす座はゆがんだ四角形で、案外目立ちます。アークトゥルス、スピカと、しし座のデネボラを結んでできる正三角形が春の夜空の目印「春の大三角」です。

冬の星座は明るい星が多くにぎやかですが、西の空に傾いてそろそろ見納めです。まだ「冬の大三角」をつくる、おおいぬ座のシリウス、こいぬ座のプロキオン、オリオン座のベテルギウスは目立っているので、この機会にぜひ観察してみてください。

火星もそろそろ見納めです。17日には月が大接近します。日没直後は火星の下に月が見え、沈む頃に最も近づいて見えます。